

重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)	市は、事業について柔軟に見直せるような仕組みを持っている	
施策名	事業見直しのシステムを確立する	No.53

年度	平成27年度
責任部長	企画部長
主担当課長	企画政策課長
関係課	秘書広報課、人事課、行政課、財政課、市民病院管理課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値		実績値				目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
事業を柔軟に見直せる仕組み(システム)の数(個)	→	6	7	7	7	7	7	8
		7	6	6	6			9
業務改善奨励制度を利用した市職員の割合(%)	→	-	-	-	-	-	-	-
		18.4	27.2	29.0	28.8			37.6
市が積極的に事業見直しに取り組んでいることを知っている人の割合(%)	→	-	-	-	-	-	-	-
		-	14.9	14.3	12.1			32.7

2. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・多くの民間企業では業務改善活動が活発に行われている。
- ・自治体には住民のニーズを的確に把握するだけでなく、その事業成果を検証することが求められるようになってきている。
- ・多くの自治体では、成果指向型の事業展開を始めている。
- ・効率性という観点で官民が比較されるとき、官は非効率であり、民は効率的という観念が根強い。

3. めざすべき姿に対する現状評価(まちづくり指標や外的要因等からの評価)

現状評価	B 停滞	<ul style="list-style-type: none"> ・見直せる仕組みの数は、横ばいである。 ・業務改善奨励制度を利用した職員の割合も、横ばいとなっている。 ・事業見直しの取り組みを知っている市民の割合は少ない。 以上のことから現状評価はB、停滞とする。
------	----------------	--

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価(行政活動の評価)

長期成果(事業群①)	長期成果(事業群②)	長期成果(事業群③)	長期成果(事業群④)
市は、内部から(市役所自ら)事業を見直せる	市は、外部より(市民)の意見等により事業を見直せる		
政策形成職員研修事業	総合計画推進市民会議事業		
職員提案制度事業	市政アンケート事業		
業務改善奨励制度事業	市民意見提出運用事業		
行政評価事業	市民ファックス・市民ポスト・Eメール事業		
行政改革推進事業	患者満足度アンケート調査事業		
予算枠配分事業	お気づきメモ事業		
	各種審議会・ワークショップ等開催事業		
評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)の一手手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。		
評価	長期成果は、内部からと外部からに分けられており、モレもダブリもない。また、各事務事業も充実していると考え。業務改善奨励制度を利用した職員の割合は停滞しており、業務改善意識を高めるため、制度をさらに周知していく必要がある。また、市が事業見直しを行っていることが、市民に浸透していないようであり、上記事業群②をさらに推進していく必要がある。		
次年度の改善計画	無作為選出による市民参加制度を活用するなど、ワークショップ等への参加を呼びかけ、外部(市民)の多様な意見を聴くように努める。また、新たに各課が抱えている懸案事項などをテーマとして取り上げるワークショップの開催を検討する。 【改善】ワークショップ等開催事業		

 総合計画推進市民会議による現状評価(※総合計画推進市民会議が発表した「重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)の評価書」から転記)

評価	C 悪化傾向	各指標とも目標値に未達であるが、特に指標3は目標に対する乖離が大きすぎる。市が事業の見直しに取り組んでいる姿は、市民にはほとんど知られていないと思われる。
----	------------------	---